

令和6年度 江戸川区立清新ふたば小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○知 しなやかな子ども（自ら学びに向かい、知識を知恵に変え、行動できる子ども） ◎徳 おだやかな子 おだやかな子 ども（相手の 気持ちを大切にし、あたかでぬくもりのある学校づくりの担い手となる子ども） ○体 すこやかな子ども（心身ともに健康な生活を意識して送ろうとする子ども）		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・地域に根ざした教育を実践する学校づくり ・子どもが「明日も学校へ行きたいな」と思える学校づくり ・教職員が子どもの成長や、やりがいを感じる学校づくり	
前年度までの本校の現状	成果	○保護者・地域の方々の協力のもと、落ち着いた校内環境を維持しながら教育課程を進めることができた。 ○日々の授業改善に力を入れたことで、児童にとって「明日も行きたい」と思える学校になってきている。	課題	○基礎的・基本的な知識の定着はもちろんのこと、問題解決に向けた思考力・判断力等を活用する能力の向上。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得。家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・既習事項を活かした問題解決的学習の実施 ・東京ベーシックドリルの取り組み ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	・児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実 ・東京ベーシック診断テスト正答率80％ ・授業内における活用100％	B	A	B	・一人一人の課題や困り感に応じた学習指導が継続できている。 ・現時点での診断テスト正答率は69%であった。基礎基本の定着を図る。 ・有効活用できている。	A	・わかる授業、楽しい授業をこれからも続けてほしい。 ・授業を通して、児童に自信を身に付けてほしい。	A	・2学期に診断テスト正答率をもとに基礎学力定着のための工夫をし、study weekで充実を図ったことが、校内全体として基礎学力の底上げにつながった。	A	・一人一人の状況に応じた指導を引き続き行い、一人も取り残さない指導を目指してほしい。 ・基礎的・基本的な学習の積み重ねを大切にしてほしい。	・放課後補習教室の利用の人数と出席率を高める。 ・診断テストなどを有効に活用する。
	○読書科の更なる充実	・読書科授業の充実35時間。 ・総合的な学習や各教科と関連した探究的な学習 ・巡回図書館司書や図書ボランティアを活用し、学校図書館の整備や図書選定等を進める。	・読書好きな児童80％以上 ・調べ学習が楽しい70％	A	A	A	・巡回司書、学校応援団の方の活動により、調べ学習への意欲や探求心が向上している。 ・学校図書館の整備、充実と地域図書館との連携が進んでいる。	A	・家庭内においても、読書する習慣を身に付けてほしい。 ・地域の図書館なども、積極的に活用してほしい。	A	・巡回司書や地域図書館との連携が進んでいる。 ・連携が進むことにより、読書科をとおして、学年に応じた探究的な学習ができた。	A	・学校図書館や地域の図書館をさらに活用してほしい。 ・楽しみながら調べ学習ができる指導をこれからもお願いします。	・巡回司書と学校応援団の協力を、今後も仰いでいく。 ・地域の図書館と連携し、団体貸出を効果的に活用する。
体力の向上	○運動意欲や体力の向上	・休み時間を活用した「運動遊び」の全校実施	・休み時間の外遊び参加率90％	A	A	A	・休み時間には、担任と児童が一緒になって外遊びに励んでいる。	B	・放課後、外で遊ぶ子供が少なくなった気がする。ゲームだけでなく、体を動かしてほしい。	A	・休み時間は外で遊ぶことを推奨し、教員も子供と一緒に外遊びをした。	A	・学校公開で、休み時間に大半の子供たちが教員と元気よく外遊びをしている姿をみることができた。	・外遊びの推奨を、今後も続けていく。
		・体育科の授業での十分な運動量の確保	・体育科の授業での運動量10％増やす	A	A	A	・教員間で体育に関する学び合いの場を設け、授業改善が進んでいる。	A	・運動が苦手な子も楽しめる授業をお願いします。	A	・教員間で体育に関する学び合いの場を定期的に設けたことが、授業改善につながっている。	A	・学校公開で体育の授業をみたが、子どもたちが楽しそうに学ぶ姿を見ることができた。	・体育の授業では、運動量を確保できるように、引き続き授業改善を行う。
		・学期に1回実施するなわとびウィークの充実。	・学期にごとに2週間、年間6週を設定する	A	B	A	・集会などを通して児童が主体的に呼びかけ、取組を推進できている。	A	・コロナ禍で体力が落ちていると思うので、十分に体を動かしてほしい。	B	・縄跳び名人を招聘し、縄跳びの楽しさや奥深さを味わわせることができた。 ・苦手感がある児童もいる。	A	・個人差が生まれると思うが、楽しんで技の向上や体力づくりに取り組めるように指導の工夫をしてほしい。	・子供たちが楽しんで向上や体力づくり取り組めるように、工夫する。
実現に向けた共生社会の推進	○特別支援教育の推進	・UDLの視点を取り入れた授業改善。	・UDLを取り入れた研究授業を年間6本実施	A	A	A	・全教職員がUDLに対する理解を深め、日常的な実践へつなげられている。	A	・誰でも学びやすい環境は、とても重要だと思います。	A	・区の研究指定校となりUDLの視点で授業改善を行った結果、個に応じた指導をすることができた。	A	・子供同士に優しさや温かさが生まれるような指導を、今後も続けてほしい。	・次年度も校内研究をUDLの視点での授業改善とする。
		・特別支援委員会の充実	・週1回15分情報共有の時間を設定	A	A	A	・担任、コーディネーター、心理士などが連携を密に取って、日常的な対応に当たっている。	A	・その子の良さを最大限に引き出せる教育を行ってほしい。	A	・教員間の連携がスムーズに行われ、子供たちについての情報共有ができています。	A	・特別な支援を要する子供たちに対して、さらに手厚い支援をお願いしたい。	・SCやSSWとの連携を一層密にしていく。
		・特別支援教育研修会の実施	・通常級において、巡回指導員による授業を年2回実施	A	A	A	・当初計画の実施と合わせ、必要に応じて適宜OJTを実施できている。	A	・専門性を高める研修は、これからも充実させてもらいたい。	A	・教員に対すると特別支援の研修や、子供たちへの啓発授業を行うことができた。	A	・教員にも子供にも特別支援の理解を深める工夫をしていることはありがたい。	・保護者への啓発も重視する。

不登校の対応・いじめの充実	○「ふれあい月間」を中心に据えた、道徳教育の充実	・いじめを題材にした道徳授業を定期実施	・ふれあい月間において「いじめ」に関する授業を1回以上実施	A	A	A	・いじめに関する授業の実施はもちろんのこと、未然防止・早期発見に向けた情報共有ができています。	A	・誰もが安心して通える環境をこれからも築いてほしい。	A	・いじめを題材にした道徳授業を、学期に1回ずつ実施した。	A	・引き続き、いじめやトラブル対応などの早期解決に努めてほしい。	・学期に1回ずつ、いじめを題材にした道徳授業を行う。
	○hyper - QUの有効活用	・職員全体で学級の実態を共有し、個別支援の充実	・週1回以上の情報共有	A	A	A	・児童一人一人を多くの目で見守ることができている。	A	・児童にとって相談しやすい環境づくりをお願いします。	A	・hypre-QUを実施した。結果の配布のみならず、学年・学級経営に生かした。	A	・今後もhypre-QUの結果などを生かした丁寧な実態把握や指導をお願いしたい。	・学校全体で情報共有し、学校として一貫した指導を行う。
学校（園）の実現 地域社会に開かれた	○自校の取組をの積極的な発信	・学校HPにおいて日々の教育活動を発信	・行事ごとに内容を更新する	B	B	B	・HPの更新が滞ることがあった。複数の目で確認していく。	A	・様々な場面で情報を発信していったほしい。	B	・HPの更新が滞らないように、校内で声を掛け合って更新を心掛けた。	A	・子供たちの様子を見ることができるのは嬉しい。	・HPの更新を、より積極的に行う。役割分担し、確実に更新できるようにする。
		・学校公開や行事を地域の方に発信し、開かれた環境を構築	・情報発信を定期的 to 実施し、足を運びやすい環境にする	B	A	B	・学校公開や運動会など、多くの方にご来校いただいている。	A	・児童ががんばっている姿が見られ、うれしく思います。	B	・学校公開や様々な学校行事に、保護者のみならず地域の方にも御来校いただけた。	B	・コロナの時期は参観すること自体が心苦しかったが、参観できるようになり、ありがたい。	・今後も地域の方に御来校いただけるよう、あたたかな学校づくりに努める。
	○学校関係者評価の充実	・全校統一した重点項目による評価の理解	・江戸川区の施策実現に向けて学校評価を行う	A	A	A	・反省点を挙げ、よりよい改善策を講じていく。	A	・地域の願いや思いが、日々の活動に生かされることを願っています。	A	・重点項目による評価の理解をさらに進める。	A	・学校全体で共通理解を進め、一貫した指導を進めてほしい。	重点項目を再確認し、指導を徹底する。
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・月2回の定時退勤日の設置	・会議の精選 ・ICTを活用した分掌の実施	B	B	B	・学校LANやiPadを活用して、時間短縮が図れている。これからもさらなる工夫を講じていく。	A	・学校現場もよりIT化が進むことを願っています。	B	・職員会議や夕会、C4thを有効活用し、短時間で情報共有する工夫をしている。連絡漏れが無いよう連携を徹底する。	A	・効率よく仕事ができるよう、環境を整えてほしい。	・定時退勤を推奨する。 ・報連相や情報共有を徹底する。
	○若手研修の充実	・若手教員で運営する研修の充実	・月2回を基準に、研修の時間を確保する	A	A	A	・若手教員が主体となって、学びの多い研修が行われている。	A	・忙しいと思いますが、ぜひがんばっていただきたいです。	A	・若手教員の指導力が少しずつ伸びている。	A	・子どもたちのため、今後もよろしく願います。	・若手のみならず、学校全体の教員同士が、日常的に学び合えるようにする。